

平成 2 6 年度
(第 2 5 期)
事業報告書

社会福祉法人AJU自立の家



目 次

◆平成26年度事業報告

平成26年度を振り返って-----	1
社会福祉法人AJU自立の家 事業概要報告-----	3
障害者多機能型生活支援センター・サマリアハウス-----	6
わだちコンピュータハウス-----	11
ピア名古屋-----	17
自立生活情報センター-----	20
ほかつと軒-----	23
障害者ヘルパーステーション・マイライフ-----	25
相談支援事業-----	29
(サマリアハウス・わだちコンピュータハウス・ピア名古屋)	
名古屋マック-----	31
(名古屋マック・TYMルーム・ピートハウス)	
多機能型障害者自立支援施設-----	35
アジア障害者支援事業-----	36

◆平成26年度決算報告

資金収支決算書-----	37
事業活動収支決算書-----	38
貸借対照表-----	39
財産目録-----	41

平成26年度を振り返って

社会福祉法人 AJU 自立の家

常務理事 江戸 徹

平成26年度は、AJU自立の家にとって設立25年を迎える年であり、事業基盤も財政基盤も安定的に推移していった中にも、新たな運営基盤を整える取り組みを行いました。

新たな25年を見据え・人材育成・組織運営のルールづくり・就業環境の充実を重点項目と掲げ、取り組みを着実に進めてまいりました。職員研修においては「温故知新」をテーマとして、法人設立当時の想いを改めて聞くことにより、想いを再確認し、弱い人の立場に立った支援を続けていくことが大切です。就業環境については、週休二日制導入に向けては議論を踏まえて、平成27年度から月2日の週休二日を実施することにしました。

また、法人設立25周年事業のプロジェクトチームを立ち上げて、企画立案を若手職員が担ってもらうことで職員の育成に努めました。

設立25年を経て、建物の老朽化が目につくようになり、単体の修繕では収まらなくなり、わだちコンピュータハウス、サマリアハウスについて、大規模修繕を実施し施設機能向上につなげました。そして、ヘルパーステーションマイライフ事務所についても現状の事務所では手狭になっていることから、新たに昭和区明月町に建屋を建設し、利用者や登録ヘルパーが気軽に来所できる環境整備に務めました。

こういった取り組みに関して働く側の環境整備、人材育成は着実に進めてきて、より良いサービス、支援ができる体制が整いつつある中で、利用者といわれる障害当事者に対する支援の充実にこれからは繋げていく必要性を感じています。

事業では、長年の夢であった自前の醸造設備を有する施設を愛知県及び小牧市のご協力により、小牧市野口地区におけるワイナリー建屋が3月31日に完成し引き渡しをしていただきました。この施設の完成を機に、知的障害者の就労支援を本格的に行い、仲間の人数も現在の20名から40名に増員とし、平均工賃15万円をめざし障害のある人が地域で自立生活する上で大きな課題となる経済的な自立をクリアするためのチャレンジであり、全国に誇れる施設になるよう期待していますとともに、地元の人が気軽に訪れていただけるよう施設でありたいと願っています。

圃場関係では、小牧市藤助の地に植えた小牧産のぶどうを初めて収穫しました。来年度以降も収穫を行い、早い段階での小牧産ワインを皆様に飲んでいただけるよう日頃の世話を怠らないよう努力していきます。また、建設地近隣の土地を地権者の皆様のご協

力により、延べ 3.0 ヘクタールの土地をお借りして開墾しぶどうの苗を植えることができ、多治見の圃場を含めて 4.1 ヘクタールの土地を確保することができました。

また、オーストラリアの圃場 80,000 m²の土地で栽培しているぶどうの収穫状況も良く、27 年度当初に 5 万本のワインを輸入し販売する計画です。この圃場には、26 年 4 月に知的障害者の仲間 5 名とともに訪れ、ぶどうの収穫作業を実際に行いました。

サマリアハウスでは、福祉ホームの入所者を中心としたサークル活動をスタートさせ、大学生との交流を兼ねた音楽イベントを開催する等、新しい取り組みを行いました。新しい試みを繰り返し経験していくことが大切だと考えます。

わだちコンピュータハウスでは、IT 事業部のシステム開発や WEB デザイン業務などが好調だったため、売上目標を 500 万円近く上回り、平均工賃 11.1 万円となりました。

ピア名古屋は、小牧ワイナリーが完成したことにより、福祉機器販売部門が単体での事業運営が可能かどうかの議論を経て、27 年度以降は、生活介護事業所として新たなスタートを踏み出す準備を整え名古屋市に対して事業所申請を行いました。事務所も新たに明月町の一階に移ることとなり、新たな環境、新たな利用者を迎えて、従前の活動を継続しつつ、更なるステップアップとなるような取り組みに繋がることを期待しています。

相談支援事業について、当初から、サマリアハウス、わだちコンピュータハウス、ピア名古屋の 3 事業所で事業を行ってきましたが、より良い支援を行うために事業所を統合してサマリアハウスのみで行い、相談支援員を複数名配置して相談業務を行うことにいたしました。

多機能型施設は、地域住民からの同意を得ることができず、大変残念ですが 27 年度に持ち越すことになりました。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が平成 28 年 4 月に施行されるのに伴い、名古屋市をはじめ関係機関に働きかけをするとともに、地域住民から理解が得られる取り組みに繋がることを期待しています。

AJU 自立の家の今後 25 年を考える第一歩の年であったと思います。次世代を担う人材育成においては、研修担当を配置して、検討・実施してまいりましたが、しかし、この一年で目に見える成果はなかなか見えてきませんでしたが、この取り組みは継続して実施していくことで次世代の育成に繋がることを信じて今後も続けてまいります。

社会福祉法人A J U自立の家 事業概要報告

1. 事業の実施状況

(1) 経営施設ならびに定員

社会福祉法人A J U自立の家では、第2種社会福祉事業として22事業、公益事業として7事業を運営しています。また、平成28年度に向けて昭和区恵方町・若柳町、松風町に多機能型福祉施設建設の開設に向けて取り組んでいます。

法人事業以外の部分では、愛知県重度障害者の生活をよくする会、愛知県重度障害者団体連絡協議会、自立生活センター・生活塾をはじめとする障害者団体と協力し、A J Uグループとして社会福祉の向上を進めています。

①第2種社会福祉事業

平成27年4月1日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住 所
サマリアハウス	①障害者福祉ホーム	20名	昭和区恵方町 2-15
	②障害福祉サービス事業（生活介護）	20名	
	③障害者（児）相談支援事業	—	
わだちコンピュータハウス	④障害福祉サービス事業 （就労移行事業、就労継続支援A型、 就労継続支援B型、生活介護）	40名	昭和区下構町 1-3
ピア名古屋	⑤障害福祉サービス事業（生活介護）	20名	昭和区明月町 2-33-2
ピートハウス	⑥障害福祉サービス事業 （精神障害者グループホーム）	12名	北区柳原 1-17-2 北区域見通 1-1
ほかつと軒	⑦老人居宅介護等事業 ⑧障害福祉サービス事業 ⑨福祉サービス利用援助事業 ⑩移動支援事業	—	昭和区池端町 2-21
障害者ヘルパーステーション マイライフ	⑪障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑫移動支援事業	—	昭和区明月町 2-33-2
障害者ヘルパーステーション マイライフ西	⑬障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑭移動支援事業	—	西区南川町 92 若草マンション 1F
障害者ヘルパーステーション マイライフ刈谷	⑮障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣）	—	刈谷市幸町 2-7-14
障害者ヘルパーステーション マイライフ岩倉	⑯障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣）	—	岩倉市大地新町 1-38
	⑰地域活動支援センター	10名	
昭和区障害者 基幹相談支援センター	⑱障害者相談支援事業	—	昭和区松風町 2-28
名古屋マック	⑲地域活動支援センター	20名	北区金城 1-1-57
サポートJ	⑳地域活動支援センター	10名	昭和区松風町2-28
	※多機能型福祉施設建設事務局	—	
T Y Mルーム	㉑地域活動支援センター	15名	北区柳原2-7-7
小牧ワイナリー	㉒障害福祉サービス事業 （就労移行事業、就労継続支援B型）	40名	小牧市野口大洞2325-2

②公益事業

平成 27 年 4 月 1 日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住 所
障害者ヘルパーステーション マイライフ	①ホームヘルパー養成研修講座 (2級ヘルパー、重度訪問介護従事者養成研修) ②ガイドヘルパー養成研修講座(全身性)	—	昭和区明月町 2-33-2
ほかつと軒	③居宅介護支援事業	—	昭和区池端町 2-21
わだちコンピュータハウス	④重度身体障害者リフトカー運行事業	—	昭和区下構町1-3
サマリアハウス	⑤高齢者世話付住宅(シルバーハウジング) 生活援助員派遣事業	24 世帯	昭和区恵方町
サマリアハウス	⑥名古屋市身体障害者自立生活体験事業	1 名	昭和区恵方町2-15
法人本部	⑦アジア障害者支援プロジェクト	—	昭和区恵方町2-15

2. 法人の運営状況

①理事ならびに監事

平成 27 年 4 月 1 日現在

理事会は理事 9 名、監事 2 名で組織しています。すべての理事については以下の通りです。

役職名	氏 名	職 業 等	任 期
理事長	野村 純一	カトリック名古屋教区長 (司教)	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
理 事	小野 金夫	タイハウグループ会長	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	川村 悌弼	株式会社三晃社会長	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	天野 鎮雄	俳優	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	岩崎一二三	カトリック教会司祭	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	江戸 徹	A J U 自立の家常務理事	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	七種 照夫	カトリック教会司祭	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	柴田 詩子	行政書士	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	山田 昭義	A J U 自立の家専務理事	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
監 事	伊藤宗太郎	会計事務所経営	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
	安達 良幸	元名古屋市職員	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

②評議員会

評議員会は21名で組織しています。すべての評議員については以下の通りです。

氏 名	職 業 等	氏 名	職 業 等
野村 純一	カトリック名古屋教区長（司教）	水 谷 真	わだちコンピュータハウス施設長
七種 照夫	カトリック教会司祭	高 橋 明	名古屋マック後援会
川村 悌弼	株式会社三晃社会長	ヨハネス・シュベルト	カトリック教会司祭
岩崎一二三	カトリック教会司祭	松浦 昌文	A J U自立の家職員
天野 鎮雄	俳優	児島美都子	日本福祉大学名誉教授
柴田 詩子	行政書士	服部 道子	A J U自立の家後援会事務局
江 戸 徹	A J U自立の家 常務理事	加藤 清久	自営業
小野 金夫	タイホウグループ会長	井 上 真	恵若町内会会長
山田 昭義	A J U自立の家 専務理事	浅井貴代子	A J U自立の家職員
勝呂 富夫	A J U自立の家職員	平山 晶士	愛知県重度障害者の生活をよくする会会長
鬼頭 義徳	昭和区多機能型生活支援センター 準備室室長		

③理事会・評議員会の開催状況

社会福祉法人A J U自立の家の最高議決機関である理事会ならびに評議員会は、以下のように開催しています。

開催年月日	会議の種別	出席者数／定数	議 題
平成 26 年 5 月 28 日	理事会	7/9	1. 平成 25 年度事業報告について 2. 平成 25 年度決算報告について 3. 事業経過報告について 4. 後援会からの報告について
	評議員会	14/21	
平成 26 年 7 月 21 日	理事会	6/9	1. 小牧ワイナリー入札参加資格について 2. 小牧ワイナリー入札公告案について
平成 26 年 8 月 6 日	理事会	6/9	1. 小牧ワイナリー入札参加業者について
平成 26 年 9 月 2 日	理事会	8/9	1. 事業経過報告について 2. 会計状況報告について 3. 補正予算について 4. 小牧ワイナリーの入札について 5. 事業進捗について 6. 後援会からの報告について
	評議員会	18/21	
平成 26 年 11 月 25 日	理事会	6/9	1. 醸造機器の購入について
平成 27 年 2 月 9 日	理事会	7/9	1. 事業経過報告について 2. 会計状況報告について 3. 補正予算について 4. 事業進捗について 5. 後援会からの報告について
	評議員会	18/21	
平成 27 年 3 月 23 日	理事会	7/9	1. 補正予算について 2. 平成 27 年度事業計画について 3. 平成 27 年度予算について 4. 事業進捗について 5. 諸規程の変更について 6. 平成 27 年度人事について 7. 後援会からの報告について
	評議員会	18/21	

障害者多機能型生活支援センター・サマリアハウス

<26 年度の事業方針>

- ・スタッフ自らも主体的に創意工夫して当事者をサポート
- ・当事者による当事者エンパワーメント
- ・当事者主体を主眼においての他部署との連携強化

I. 総括

26 年度は新人スタッフ 3 名が入るなど、25 年度に続いて大幅な体制の変更がありました。

そのような中、福祉ホームでは入居者を中心とした夜の月一回の新イベントを実施し、デイセンターでは主人公企画を発展させたサークル活動を新しくスタート、またホーム入居者が中心となって企画した、大学生との交流を兼ねた音楽イベントをサマリアハウス社適で開催する等、新しい取り組みを行いました。

毎年実施している障害のある高校生向け夏季自立体験プログラムでは、中堅の当事者スタッフがリーダーとなり、例年以上に若手の当事者スタッフが中心になって企画・準備・実施しました。このプログラムは参加者であった高校生が当事者スタッフになり、自身の経験や体験を高校生達に伝えていくとともに、当事者スタッフ自身も先輩スタッフにアドバイスをもらいながら企画を実施するといったエンパワーメントの好循環を生んでいます。

福祉ホームでの下宿スタート前後において、当事者本人を中心にしてサマリアハウス、マイライフ、車いすセンターが連携して下宿生活をサポートしました。下宿生活を始めてからある程度の期間が経っていても、まだ生活が安定していない当事者についても同様に他部署と連携してサポートをしました。車いすセンターの当事者スタッフによる、ピアカウンセリングや I L P の面でのサポートが大きな役割を果たしてくれました。次年度以降も当事者主体の理念は堅持しつつ、他部署との連携を進めていきます。

II. 事業の実施状況

◆ 福祉ホーム

(1) 利用実態

○今年度の入居者・・・4 名

氏 名	入居日	生活状況等
A さん	6/4	障害者支援事業所で一般就労しながら自立生活を目指す
B さん	6/28	中途障害で家族と同居生活から入居。医療的ケアあり
C さん	9/8	入所施設からの転居。出身地での地域生活を目指す
D さん	11/10	短期入所利用の在宅からの転居。出身地での自立生活を目指す

○今年度の退居者・・・7名

氏 名	退居日	退居後の生活
Eさん	4/26	4年間の入居を経て在宅での就労をしながらの地域での自立生活へ移行
Fさん	7/15	高齢化などによりケア付き高齢者住宅に住まいを移す
Gさん	7/25	被災地より自立生活を目指して入居。入居後1年程度で名古屋市内で仕事をしながらの地域生活移行を果たす
Hさん	7/31	人工呼吸器を使用。入居4カ月目に急逝
Iさん	9/17	人工呼吸器を使用。4年を過ぎ地域移行目前に急逝
Jさん	11/19	24時間介助使用。名古屋市内での自立生活へ移行
Kさん	1/15	人工呼吸器を使用。出身地域での自立生活へ移行

○入退去者年齢別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合 計
入居者	0	3	1	0	0	0	4名
退居者	1	0	0	3	2	1	7名

(2) I L Pの強化

- ・車いすセンター主催の自立生活プログラムには新入居者3名が受講し、新しい生活について先輩当事者から学ぶ機会をつくりました。
- ・加えて、プログラム終了後もプログラムを提供する側の障害当事者スタッフが中心となり、マイライフやサマリアのスタッフと定期的な話し合いの機会を持つことを通じて、地域での自立生活に向けて入居者が力をつけていけるような体制をつくりました。
- ・具体的には3名の入居者に対してこうした体制のもとにサポートを実施しました。

(3) 地域移行の場としての機能維持・充実

- ・事業報告平均入居者数は11名でした。
- ・特徴的なのは退居者の内、2年未満の入居期間の方が半数を占めることです。ホーム退居後の地域生活への支援が整ってきたなどの外部環境の変化があるものと思われます。
- ・体験室利用者や夏季体験プログラム利用者数も、今年度はここ数年に比較して減少しており、ホーム入居者に占める夏季体験プログラムや体験室利用者の割合が大きいことから、これらの利用者数の動向に目を向けながら、次年度以降の動きを検討する必要があります。
- ・今年度は施設訪問を行えたのは僅かに1件に留まりました。次年度は計画的に行動して愛知県内に地域移行の場としての情宣活動を行っていく必要があります。
- ・また人工呼吸器を使用する頸椎損傷、筋ジスの入居者の2名が体調を崩し、亡くなるという事態がありました。福祉ホームは地域移行に向けてリスクを冒して、自立に挑むところではありますが、医療依存度の高い方にとっては、自立生活のための医療や看護の面での基盤をどう築くかが大きな課題です。

- ・ここはいわゆる施設ではないので、健康面においても自己責任のもとに生活を送るのが当然ですが、医療依存度の高い方が自立にチャレンジする場合には主に医療や看護の支援についてのマネジメント機能、具体的には相談支援などを入居者自身がいかに使いこなすかを検討するなどの必要があると振り返ることができます。

(4) 将来を担える障害当事者の発掘

- ・愛知TRYの活動など、新しい世代が中心を担う当事者運動に参加するよう入居者に働きかけ、そのなかで一定の役割を持ち、多くの人と関係を取りながら活動することで社会的な経験を積めるようにしました。年度末現在で4名ほどの入居者が参加しています。とにかく加わって楽しくないと継続しないので、スタッフも共に参加して楽しみながら運動ができるようにすることを心がけました。

(5) 建物の維持、計画的な改修

- ・今年度は漏水防止のための防水工事、それに一階共用部分の全面的な改装工事を行いました。改装工事では雰囲気が大きく変わり、全体的に明るい印象を来訪者に提供することができるようになったという評価を得ているところです。
- ・漏水工事により突然の集中的な大雨で停電を起こしていた状態は改善され、工事以後は電気が停まるような事態は起きなくなりました。

(6) その他

- ・シルバーハウジング事業について、年に1回だけですが相談員のスタッフ4名と話し合い、情報共有と相談の機会を持ちました。
- ・それ以外にも随時シルバー住宅の住人について、特に障害をお持ちであったり、認知症のある方については状態を把握するように努めました。

◆デイセンターサマリアハウス

(1) 利用実態

【登録利用者数：26名(男9・女17)／1日平均利用者数10.8人／平均障害程度区分：5.1】

(2) 多くの人が関わりあえる場づくり、仲間の活性

- ・メンバー数名が、社会福祉士や企業、教員を目指す実習生、小学校の授業などで施設での経験談や障害者支援についての講演をしたり、車いす体験の講師をするなど活躍する機会を多く設けました。また年間を通じて近隣の大学へ通い、ボランティア募集やイベントのお知らせにも出かけました。
- ・8月1日～6日まで、毎年実施している「夏季自立体験プログラム」にスタッフとして5名が参加し、先輩当事者として活動しました。

(3) 個人に合わせたプログラム（関わり）の充実、主人公企画の充実

- ・これまで実施してきた主人公企画を見直し、より仲間や集団行動への意識を高めてもらうことを狙いとして、夏頃より『サークル活動』をプログラムの柱として実施しました。

【主人公企画およびサークル活動 年間実施記録】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画	3	1	6	2	4	3	4	5	8	3	2	5
人数	13	5	39	8	28	25	24	26	58	20	20	26

(4) 親亡き後を見据えた生活づくり

- ・もともと自分で移動したい気持ちを強く持っていた男性が、電動車いすの申請がようやく通り、市外から公共交通機関を利用して来所できるようになった方や、長年デイへ通っていた50代男性が母親の入院を機に自立生活体験室を経て、来年度4月から福祉ホーム入居を決意したメンバーがいました。
- ・また、加齢に伴い、補聴器・移乗方法の変更・理学療法や医療機器の導入・胃ろうなど体調管理や環境整備に必要な支援を導入する人が多くいました。併せて他のサービス機関との連携も随時行いました。

(5) 新規利用者の開拓

- ・11月に女性メンバーが新規契約されました。

◆自立生活体験室

(1) 利用実態

区分	実人員			小計	延日数			小計	実施件数			小計
	市内	県内	県外		市内	県内	県外		市内	県内	県外	
在宅	5	8	1	14	74	60	3	137	8	13	1	22
施設入所	1	1	2	4	28	12	22	62	3	2	4	9
計	6	9	3	18	102	72	25	199	11	15	5	31

(2) 地域移行（自立生活）のはじめの一步の場としての機能維持・充実

- ・実人員18名のうち初回利用者が8名、福祉ホーム入居者が4名、新生活をスタートした方が1名いました。
- ・昨年度より施設入所支援の利用者が半減、全体では1割減となりました。

(3) 障害種別、性別、経験別など、利用者に合わせたより細やかなプログラムづくり

- ・31件のうち、26件に対してプログラムを立てて実施しました。
- ・利用した方は脳性マヒ、ALS、筋ジストロフィー、脳血管障害、高次脳機能障害、頸椎損傷、骨形成不全、パーキンソン病等です。

(4) 障害のある高校生向け夏季自立体験プログラム、インディペンデントスクールの充実

- ・福祉ホーム退居者5名、デイ利用者5名、わだちコンピュータハウス所員1名が中心となり8日間(宿泊3日間)のプログラムを実施しました。参加者は4名でした。
- ・昨年夏季自立体験プログラムに参加した人が、新人当事者スタッフとして加わりました。

- ・新たに冬季自立体験プログラムを実施しました。2泊3日のプログラムで行い、三重の特別支援学校から1名が参加しました。

(5) 体験室の対外向け広報の強化

- ・2月に体験室説明会を実施し、22名が参加しました。内訳は障害当事者3名、施設入所支援及び就労支援の職員3名、(基幹)相談支援員15名、市役所職員1名でした。
- ・西区の就労支援施設の職員研修にて事業説明会を実施し、15名程の参加がありました。
- ・事業の広報として市内基幹相談支援センター8か所を訪問し、事業の説明をしました。

Ⅲ. 継続課題

- ・高い医療依存度や知的障害など入居者の背景や状況はより多様化してきている現状の中、地域での自立生活を見据えて、社会人としての自由と義務をその人なりに身に付けることができるようなプログラム提供に努めていきます。
- ・当事者の自立をサポートするために必要なスキルをよりアップしていき、サマリアハウスの機能を維持していきます。

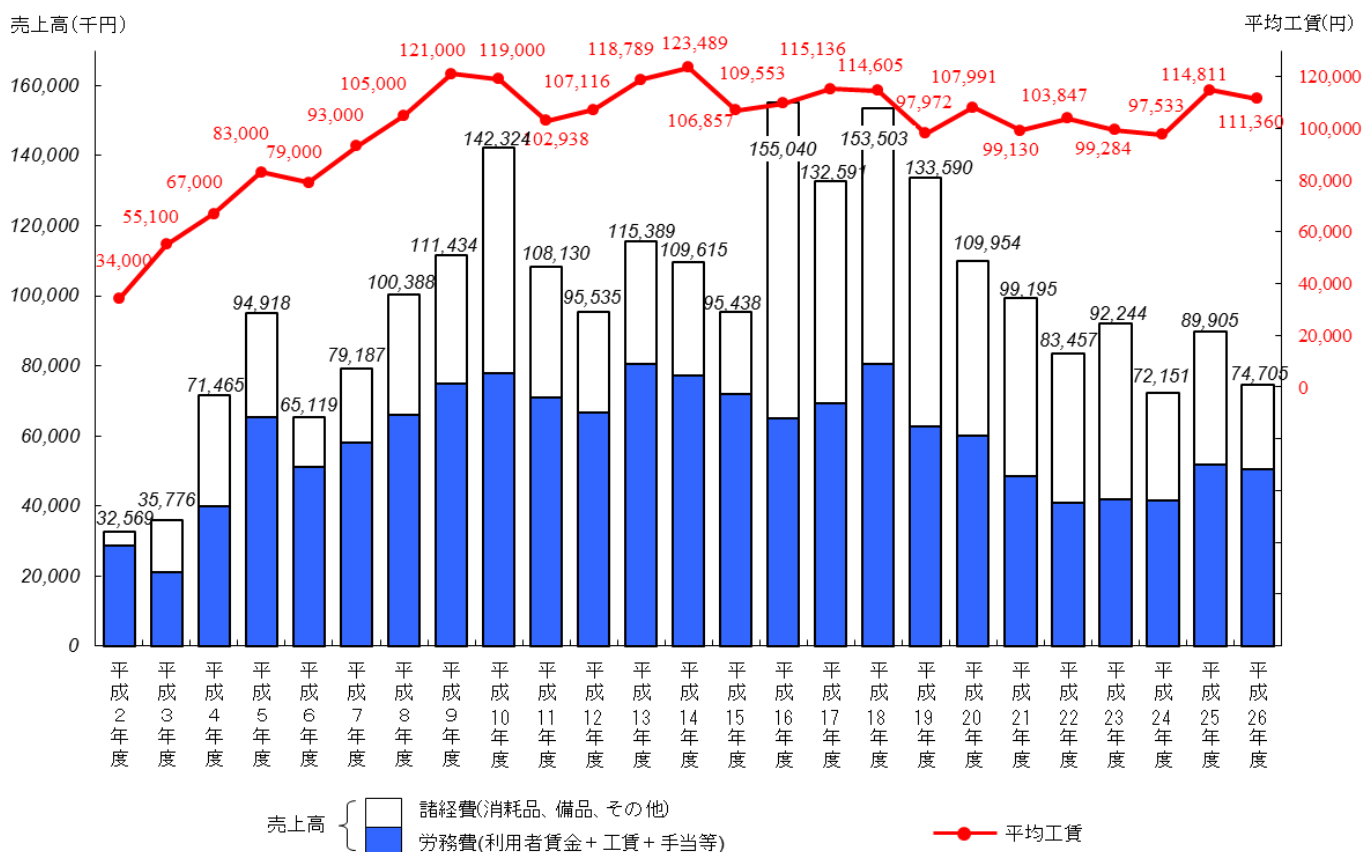
わだちコンピュータハウス

I. 総括

1. 売上高と平均工賃

平成 26 年度の売上高は 7471 万円となり、売上目標 7000 万円を 500 万円近く上回りました。前年度と比べると約 1500 万円の減収でした。

一方、平均工賃は 111,360 円でした。



2. 人員の推移

- 4月に男性1名と女性2名（1名は再入所）、6月に男性1名を迎えました。一方、体調不良により女性1名が3月末で退所となりました。
- 職員は4月1日付異動により1名が着任しました。前年度末に嘱託職員が退職したのに伴い人手不足が続きましたが、8月よりパート職員が1名、1月から嘱託職員が1名加わりました。

表 1 【所員の人員構成】 平成 27 年 3 月 31 日現在

▼性別年齢構成 平均47.0歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男 性	0	4	1	7	8	4	1	25
女 性	0	3	2	4	0	2	1	12
合 計	0	7	3	11	8	6	2	37

▼居住地構成

名古屋市	29
愛知県	7
岐阜県	0
三重県	1
その他	0
合 計	37

▼障害別等級構成

	1級	2級	3級	4級	5級	合計
視覚障害	1	0	0	0	1	2
聴覚障害	1	0	0	0	0	1
肢体不自由	16	12	0	0	0	28
内部障害	2	0	0	0	0	2
精神障害	0	2	2	0	0	3
合 計	20	14	2	0	1	37

▼年齢別利用期間構成

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	20年以上	合計
20代	1	1	1	4	0	0	0	7
30代	0	0	0	1	1	1	0	3
40代	3	0	2	0	1	1	4	11
50代	1	0	0	0	1	1	5	8
60代	1	0	1	0	0	1	3	6
70代	1	0	0	0	0	0	1	2
合計	7	1	4	5	3	4	13	37

3. 重点課題と総括

重点課題	総括
① 年間売上目標は、70,000千円。	▶ 目標を達成したものの、人件費積立金を取り崩すこととなった。
② プロジェクトチームによる取り組みを強化し、継続的安定的な受注をめざす。	▶ リニア中央新幹線名古屋駅整備にかかるユニバーサルデザイン提案業務の種まきを行った。今後更なる営業と、業務遂行のための体制づくりが必要である。 ▶ 障害者計画の策定業務が、次年度のモニタリング業務につながった。
③ 所員、スタッフともに、個人別の年間目標をもち、新しい技術、新しい仕事に挑戦していく。	▶ Web デザインの仕事では、レスポンスデザインや Wordpress を使ったサイトを構築した。 ▶ その他、個々の案件についての検証が必要。
④ 見積、企画提案、契約、精算に関する実務や留意点を共有し、担当できる人材の育成に努める。	▶ スタッフ異動後の新体制で、1, 2年目のスタッフ中心に障害福祉計画策定業務をこなすことができた。

重点課題	総括
⑤ 老朽化した機器更新と、効率的なサーバ・ネットワーク環境の整備。	▶ Windows Server 2003 から Linux Server へのファイルサーバ移行中。 ▶ A J U 公式ウェブサイトのリニューアルを行った（2015/5/9 公開）。
⑥ 抑えるべき経費を抑え、将来につながる積極的な投資を行う。	▶ 食堂 LED 化、新電力への移行により経費節減に努めた。 ▶ 大規模修繕により施設の長寿命化を図った。
⑦ 進歩し続ける情報通信技術を活用し、生産活動にかかる業務の省力化、平準化、共有化、高能率化をはかる。	▶ 準備中。 （サーバ移行の中で、共有フォルダの見直しやバックアップからの復元の簡便化などを図る）
⑧ 二次障害の進行や体調管理が困難になってきた仲間のサポート。	▶ スクリーンキーボードの見直しや、食堂座卓の活用、大規模修繕の一環で使用可能な洋式便器を増やすなど、作業環境と食事環境の改善を図った。

4. 大規模修繕

屋上からの雨漏りや、アスファルトの陥没、タイルの剥がれによる転倒の危険、扉の開閉の困難など、施設の老朽化に伴う支障が同時多発的に発生したため、9月理事会にて補正予算の承認を得て、大規模修繕を行いました。竣工から25年目にして初めての改修となりました。

- 屋上防水…アスファルト防水の取替。
- 外構…駐車場アスファルトと玄関アプローチのタイル張り替え。
- 水回り…トイレの便器と手洗いの取替、手すりの設置。
- 建具…アルミサッシの取替と手すり設置、網戸の設置、排煙窓の取替、木製引き戸の調整。
- 照明…食堂のLED化、街路灯の取り替え。
- タイルカーペットの張り替え…2階プログ室完了。編集室は次年度に持ち越し。

一方、3月には3階厨房の配水管が腐食により漏水。2階プログ室にしみ出しました。12年前に続き2度目でした。応急処置をするとともに、次年度早々に配管の取り替え工事にかかりました。

Ⅱ. 事業の実施状況

1. ユニバーサルサービス事業部……………

行政計画策定業務・イベント企画・研修業務を多く受注し、目標額の9割を達成しました。

コンサルティンググループとデータ入力グループとの連携を確実に実施して、仕事の組み立て、管理する能力の向上に努めました。

(1) コンサルティンググループ

行政計画策定業務においては、各市町村で障害福祉計画策定年度であったため、多数受注することができ、2市2町で計画策定業務を行いました。

また、調査業務においては、行政が行う住民の意識調査や各種サービスに対してのアンケート集計業務を複数行いました。行政以外では大学や社会福祉法人からも依頼を受けることができました。

(2) データ入力グループ

新規顧客を2件開拓しましたが、既存顧客からの入力業務がなく、それに代わる新規業務を見つけることができず、目標額に到達できませんでした。

(3) 企画・運営・講師派遣グループ

トヨタ自動車より受注している研修会については、仕様の変更により回数が増えたことで、計画より増収となりました。研修会や美容学校での講師を担える人材の育成については、他の業務専従者も多く継続的な課題となりました。

(4) 防災企画グループ

新規メーカーの参入もあり、間仕切りセットについて新たな既存製品の改良型を開発し軽量化及びコストダウン製品を開発しました。売り込みに関して全国からホームページによる問い合わせにより受注につながりました。また、防災セミナー等の委託事業については昨年度と同様に受託することができました。

(5) 編集・デザイングループ

年間を通じて、既存顧客からの業務を受注しました。また営業活動の効果により、官公庁からの新規業務を受注することができました。遺影などの写真編集業務について、定期的な売り上げはあったが目標額に到達できませんでした。

(6) 印刷・発送グループ

既存顧客からの受注によって、売上目標額には到達したが、新規顧客の開拓はできませんでした。

(7) リフトカー事業グループ

名古屋市の委託により、5台のリフトカーの運行管理を実施し、人員増加による体制の強化を図りました。利用者、タクシー会社の情報を担当者間で共有し、円滑に業務を遂行することができました。

2. IT事業部

26年度の柱として、システム開発部門では既存顧客向けのシステム改良や、念願のマイライフ総務向け請求業務システム永続化開発が軌道に乗せられたこと、またWEBデザイン部門では既存サイトの更新作業もしくは、一般企業のサイト新規構築など顧客ニーズに応えた結果として、IT事業部の売上高は2,924万円でした。好調だった前年度と比べると約23%の減収でしたが、例年に比べれば順当な実績でした。

なお各部門の課題であり、毎年記述される技術者の人材と技量不足について、今年度は優

秀なシステムエンジニアの協力により、多機能かつ操作性のよいホームページ構築が採用され、スマホやタブレットあるいはパソコンなど機器に応じて、可変表示するホームページを、まずはA J Uのリニューアルサイトに導入しました。引き続き人材確保など盤石な作業体制を構築していきます。

(1) システム開発グループ

今年度は既存顧客向けシステムの Windows 7 対応が落ち着いたため、パソコン納入や設定を含め 1,346 万円程度の低めな売上に留まりました。チームメンバーが重度・加齢など年々深刻化していく中、限られた人材の中で適材適所の役割分担と補完しあえる体制作りができました。

4年ぶりの受注となった名古屋市広報課の報道情報提供システム拡張では、開発スタイルや顧客ニーズとは異なる戸惑いはあったものの、Access2013 を母体でシステム動作する、現場に喜んでもらえるシステムを納入できました。

また既存顧客向けシステムの拡張・改良において、名古屋ゴルフ倶楽部業務システムでは JGA（日本ゴルフ協会）が運用するシステム連携に対応しました。全日本写真連盟および愛知県住宅計画課では、例年同様の対応をしました。

マイライフ総務の請求業務システム永続稼働について、一般システム業者との共同開発は折りが合わず昨春の稼働は失敗しましたが、26 年夏より業者開拓から開発委託まで軌道に乗せられ、来年度以降は永続的な稼働とサポートが整備されつつあります。ようやく顧客ニーズに寄り添う体制が期待できそうです。

技術の高度化・多様化や進歩の速さに対応したいのですが、人材不足や既存人員の加齢化という理想と現実の深刻なギャップがあり、どう対応していくか課題です。

これら課題を踏まえ、コストパフォーマンスの高い分野へのシフト、具体的には Excel や AccessVBA などを使い、スケジュール管理やカルテ管理など汎用性の高いシステム作りを今後取り組むこととします。

▼主な業務内容（顧客）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● システム改良等…名古屋ゴルフ倶楽部、全日本写真連盟、愛知県住宅計画課、AJU マイライフ、わだち業務管理 Web システムほか● IT サポート等…名古屋ゴルフ倶楽部、AJU 各事業所ほか |
|---|

(2) WEB デザイングループ

今年度は、主に AJU 自立の家のホームページリニューアルを行いました。

旧ホームページに比べ、PC やスマートフォン、タブレット端末に対応したレスポンシブ Web デザインを採用し、WordPress という CMS を導入するなど、最新の技術を取り入れました。さらに新規業務として、加藤鍛工株式会社のホームページを立ち上げました。引き続き既存ホームページの更新作業や Web サーバの保守管理も行いました。

① 今後の課題

- スマートフォンやタブレット端末が普及してきたこともあり、レスポンシブ Web デザイン(PC、スマートフォン、タブレット端末など各種表示幅サイズに応じて、レイアウト変更可能な手法)の提案や受注も増やしていきます。

- CMS など動的サイト作成を含む業務を受注していきます。
 - ホームページのコーディングやデザインの技術力を高めていく必要があります。コーディングについてコーダーが書いたソースを理解して、技術の学習に努めており、新規ホームページ作成に活かされています。またデザインについても月 2 回ペースで行われている講習会に参加し、外部から講師を招いてデザイン力の向上や Web 業界最新トレンドの学習を行いました。プログラミングの基礎や Linux サーバの学習について今年度も十分取り組めず課題は残ります。HTML5 や JavaScript (jQuery) などにも取り組んでいくこととします。
- 一方で情報処理技術者試験にもチャレンジして、ネットワークスペシャリスト試験に合格し、その技術は Web サーバの保守管理などに活かされています。

② 後進の指導について

- 現在は、AJU ホームページ更新やパンフレット作成、イベントのチラシ作成を任せています。さらに多くの業務を任せていきます。

◆主な業務内容（顧客）

タイハウグループ、名古屋市子ども・子育て支援センター（専用サーバ保守管理含む）、名古屋市健康増進課、名古屋市障害企画課、名古屋陽子線治療センター、名古屋市保健医療課、愛知県社会福祉協議会、愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター、愛知県福祉サービス第三者評価推進センター、愛知県子ども会連絡協議会、愛知県老人クラブ連合会、DPI 日本会議、豊秋奨学会、愛知難病救済基金、はっとり歯科クリニック、NPO 法人アープ、名古屋緑断酒新生会、中部善意銀行、加藤鍛工株式会社、AJU ホームページ保守管理、AJU 季刊誌編集・チラシ作成・パンフレット作成 ほか

(3) ITサポートグループ

今年度も機器購入後の設定や相談及び年 6 回の一斉講習・個別講習を実施しました。また日常生活用具給付制度によるパソコン購入も多数あったものの、パソコン本体及び周辺機器の低価格化や愛知県の障害者 IT 総合推進事業補助金削減の影響を受けて、前年度比-45 万円と売上は低調でした。

当部門の利点として障害当事者が対応することで、相談者や受講者の障害特性や生活状況等を考慮することを大切にし、より重度な障害のある者の視点に沿った支援をすることができました。パソコン講習では基本操作の他にブログ作成の習得など、受講生個別の要望に合わせた講習を行いました。

パソコンのメンテナンスについては、一般業者と比べ半額以下でパソコンの修理やデータ復旧の対応を行い、数字に表れにくい顧客満足度の高い実績は得られました。

PC ソフトの Windows8.1 ならびに Office2013 の操作やノウハウの習得、講師及び相談員の IT スキルアップと人材確保の課題は依然として残ります。

◆主な業務内容

障害者 IT 総合推進事業	122 万円
IT 講習会受講料	10 万円
日常生活用具給付及び機器購入・サポート	113 万円
合 計	245 万円

ピア名古屋

<26年度の事業方針>

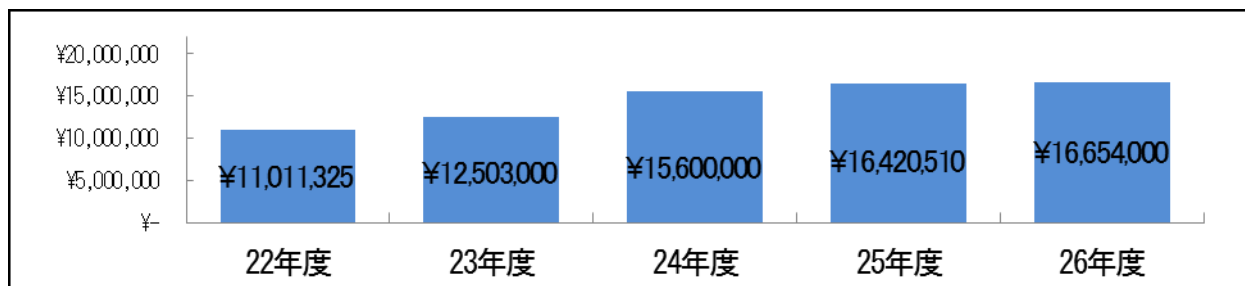
ピア名古屋は、27年度に向け、福祉機器販売部門とワイン販売部門の方向性の検討を行います。
ワイン販売部門は、小牧ワイナリー(ピア小牧)が開所するため、作業体制を改めて組み立てていきます。

I. 総括

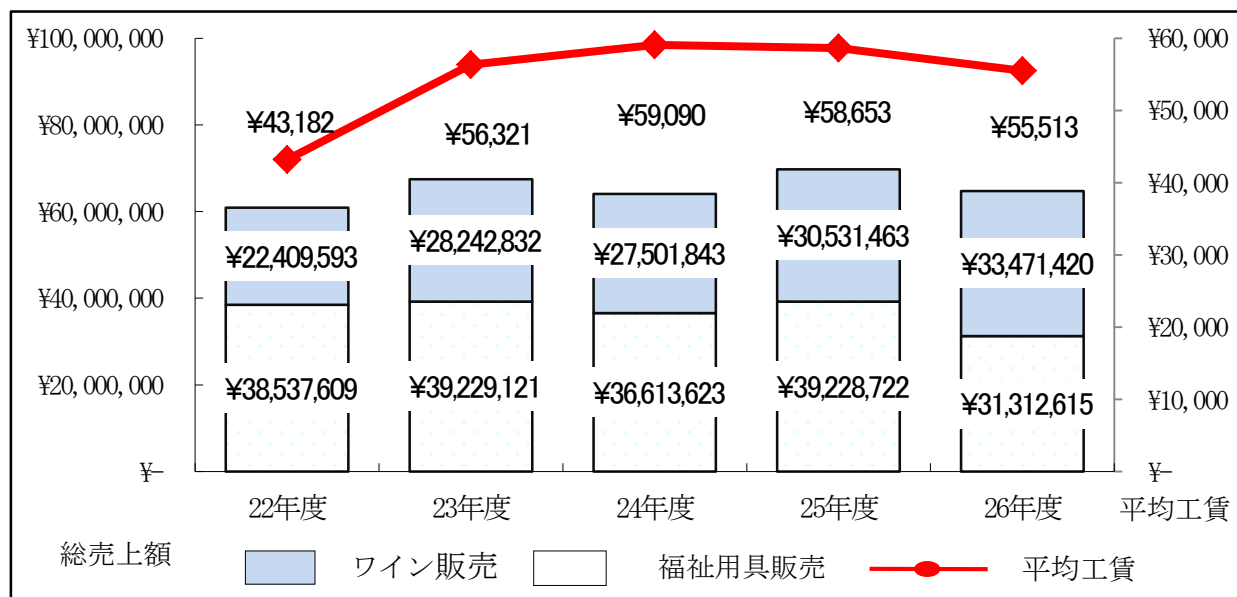
就労継続支援B型では18名、生活介護では、9名が、それぞれの障害や経験等を活かした働く場を目指すための活動を行いました。新しく仲間が増え、平均工賃は下がっていますが、目標工賃支払を達成することができました。

27年度にワイン事業と福祉用具事業が分離しそれぞれ独立した事業所となります。そのための移行準備を進めました。福祉用具の利用募集をして希望者に見学、実習を行いました。またワイン事業利用者を募集するため、小牧市内で説明会を実施しました。

工賃総支払推移表



売上推移・平均工賃推移表



Ⅱ. 事業の実施状況

◆ 生活介護・福祉用具販売

(1) 利用者数

	生活介護				
区分	6	5	4	3	計
男性	2	1	1	1	5
女性	1	1	1	1	4
合計	3	3	2	2	9

開所日数 年間 293 日 通所者数延べ（生活介護）1,406 人

26 年度中 1 名入所

(2) 売上 31,312,615 円

(3) 工賃 5,665,000 円

(4) 事業内容 福祉用具販売

(5) 事業概要 公的機関、高齢者施設、冠婚葬祭施設などに車いす、スロープの営業、販売を行いました。また防災関連商品の提案も行いました。
車いすでは新規メーカーの取り扱いを始め、新たな選択肢を持ちました。

◆ 就労継続支援B型・ワイン事業

(1) 利用者数

	就労継続支援B型				
区分	4	3	2	区分なし	計
男性	1	4	4	0	9
女性	0	2	5	2	9
合計	1	6	9	2	18

障害区分別人員構成（平成 27 年 3 月 31 日時）

26 年度中 1 名入所 1 名生活介護へ移動

開所日数 年間 245 日 通所者数延べ（B型）3,621 人

(2) 売上 33,471,420 円 その他 76,930 円

(3) 工賃 11,477,700 円

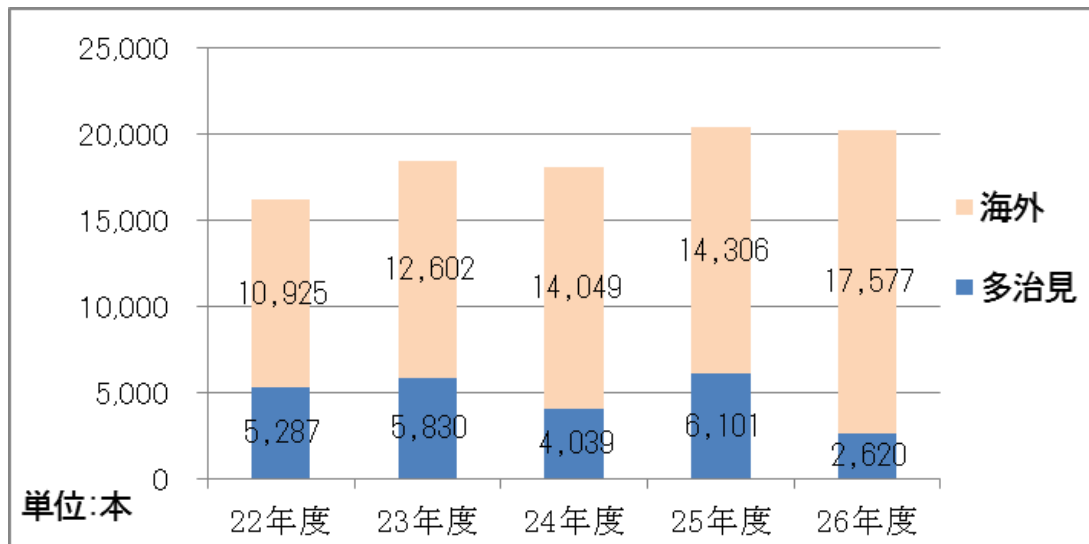
(4) 事業内容

- ・多治見修道院ワイン事業の葡萄生産と修道院ワイン販売
- ・世界の修道院ワイン輸入販売
- ・オーストラリア圃場での葡萄生産と醸造、輸入販売
- ・小牧ワイナリーの施設建設と圃場の整備、葡萄生産

(5) 事業概要 売上増加を目指し「小牧ワイナリー」を建設しました。2015 年 3 月 31 日に引き渡し、引っ越しを行い、平成 27 年度に新規事業所として稼働します。5 月開所時のワイン確保にオーストラリア圃場から輸入、併せて海外修道院ワインも仕入れました。

2014 年 4 月オーストラリア圃場に所員 4 名と職員で現地へ伺い、圃場での作業や見学を行いました。「初めて飛行機に乗った」「オーストラリアの畑はとても広い」「日本と違い機械作業に驚いた」といった感想で、素晴らしい経験が出来ました。

ワイン販売推移表



Ⅲ. ワイナリー準備室

平成 26 年 9 月末から始まった小牧ワイナリー建設も平成 27 年 3 月 31 日に完成、引き渡しとなりました。ワインの樹の会の会員もこの一年間で約 400 名のオーナーが集まりました。地域に根差すワイナリーとして努力していきます。

- (1) 圃場：目標 10ha に対し約 4.0ha 確保しました。来年度も確保に向けて努力します。

圃場	多治見	小牧	オーストラリア
面積	1.1ha	3.0ha	8ha

- (2) 新規所員の募集：特別支援学校や近隣事業所に声かけをして説明会を行いました。

説明会の参加者

	参加人数	中学生	高校1年	高校2年	高校3年	その他
9月	17名	0名	3名	9名	1名	4名
1月	27名	4名	3名	2名	0名	18名

Ⅳ. 継続課題

事業所の分離後、仲間の自立生活につながる目標工賃の支払い

自立生活情報センター

＜26年度の事業方針＞

◆作業所型地域活動支援（障害者講師派遣）事業

- ・ 社会福祉協議会との連携にて福祉教育の推進と教職員向けの講座の実施。
- ・ 地域を巻き込んだ福祉教育プログラムの充実。
次年度の実施に向けてプログラムを検討中。
- ・ 派遣講師の人材確保とスキルアップ。
派遣講師のスキルアップや希望者の減少など、講師不足に苦慮している。

◆昭和区障害者地域生活支援センター（障害者基幹相談支援センター）

- ・ 基幹相談支援コンソーシアムとして機能充実
- ・ 区内事業者のスーパーバイズ等育成

I. 総括（年度事業方針に対する成果）

◆作業所型地域活動支援（障害者講師派遣）事業

見学・実習プログラムでは新規の学校や企業の依頼が増えてまいりました。また、重度訪問介護の研修ではDVDの導入が有効となりました。そして、若手講師の育成では外部講師を招いた勉強会を取入れました。派遣では市内外の社会福祉協議会からの依頼に対応しつつ、地元の社会福祉協議会と連携して、モデル事業や教職員向けのセミナーを実施しました。そして、新年度に向けて、市内の社会福祉協議会へ訪問調査の検討を始めました。

◆生活支援事業（昭和区障害者地域生活支援センター）

昭和区の基幹相談センター・サテライトとして1年経ちました。基幹として一体的に運営することが前提とされており、本部とは月2回の会議を実施、区内の情報共有に努めました。また、啓発という点では、区の行事にも参加しました。民生・児童委員会、昭和家族会総会にも出席し相談窓口として挨拶をしました。区協議会や認定調査、申請代行同行等で区役所保健所窓口とは毎週のようにやりとりをしました。

協議会では各部会に基幹スタッフが必ず参加、当事者部会や相談部会、施設部会には区役所が参加、相談部会・児童部会には保健所も参加し、区として連携し地域の課題に取り組めるよう、また相談部会では相談支援専門員全体の底上げのため事例検討会に着手しました。

II. 事業の実施状況

◆作業所型地域活動支援（障害者講師派遣）事業

今年度は110件の派遣（見学・実習含む）を行ないました。新規では日本福祉大学、一宮特別支援学校、北勢きらら学園（三重県）、日比津中学、南山大学教育学部、名古屋西高校などから依頼があり、企業からも豊田通商ボランティアサークルがありました。また、重度訪問介護の研修DVDを本格的に使用して、研修に有効なツールとなっています。そして、若手講師育成の取り組みとして、外部講師を招いた勉強会を実施し、さまざまな立場の障害のある人から話を聞く機会を設けました。次に市内外の社会福祉協議会からの依頼については順調に実施しま

した。新規の派遣先へは映像を交えた講話に取り組み好評を得ました。県外（三重県伊賀市）からの依頼では、教員、PTA、福祉推進協役員などの福祉教育関係者に福祉と障害の理解について体験を交えた講演を行ないました。昭和区社会福祉協議会とともに地域の病院との協働にて、医療と介護のモデル事業を実施し、教職員向けに準備してきた福祉教育セミナーを開催し、昭和区内9校の小中学校と11学区中、9学区社協の参加があり、福祉教育に対する関心度が広まってきています。次年度の実施に向けてのプログラムの検討を行なっています。新年度に向けて、市内の社会福祉協議会へ派遣状況の訪問調査の実施に向けて、内容の検討を行いました。

	特別支援	小中高	大・専門	企業等	合計	講師延べ人数
4月	0	0	3	3	6件	34人
5月	0	1	9	4	14件	29人
6月	0	5	10	3	18件	65人
7月	2	2	6	3	13件	27人
8月	2	4	5	2	13件	39人
9月	0	1	6	1	8件	19人
10月	0	4	6	1	11件	25人
11月	0	2	1	1	4件	14人
12月	0	0	4	1	5件	18人
1月	0	3	0	1	4件	6人
2月	0	8	1	2	11件	20人
3月	0	1	1	1	3件	10人
合計	4	31	52	23	110件	306人

◆昭和区障害者地域生活支援センター（障害者基幹相談支援センター）

- ・相談事業実績は以下（表）の通りです。
- ・障害者自立支援協議会では総会、5部会のほか部会間交流を目標にかかげ、児童・相談合同部会を行いました。相談部会では事例検討を開始。児童部会、施設部会、当事者部会がそれぞれ講演会やセミナーを開催しています。世話人会は年間4回開催、区役所と共催のハートフル講演会ではⅡ部のシンポジウムを担当、当事者部会から推薦のメンバーが壇上に立ちました。また区役所の応援（補助金）を受け、施設部会では区役所内での授産製品販売を強化しました。展示コーナーの新設や製品カタログの作成で販売実績アップに功を奏しました。
- ・今年度より、市内東ブロックの世話人（任期2年）を担当、東ブロック会開催(5回)のほか、世話人会、市自立支援協議会を立ち上げるための検討会、市施策推進協専門部会にオブザーバーとして参加しました。
- ・年度初めに区民生・児童委員会と昭和家族会総会に参加し、基幹センターとして挨拶をしました。
- ・愛連協（愛知県、主に西三河中心の、基幹や中核センターの連絡会）参加しました。

(単位：件)

	訪問相談	外来・電話	研修会等	認定調査	計画案 作成	計画 作成	モニタリング	配食 アセスメント
4 月	38	118	3	11	1	0	0	1
5 月	48	118	8	10	0	0	0	0
6 月	56	112	8	21	0	0	0	0
7 月	52	146	5	3	1	1	0	2
8 月	60	120	3	16	0	0	0	0
9 月	55	113	4	14	3	1	1	3
10 月	37	137	5	20	0	2	1	0
11 月	51	145	6	10	0	0	1	0
12 月	49	128	3	14	2	0	1	2
1 月	56	140	4	11	1	2	1	3
2 月	50	143	6	20	0	1	0	0
3 月	51	155	6	32	2	0	2	3
合計	603	1,575	61	182	10	7	7	14

Ⅲ. 継続課題

◆作業所型地域活動支援（障害者講師派遣）事業

- (1) 今年度は新規の派遣が少し増えてはいますが、今後は増加を図ることを課題とします。つきましては、次年度に市内の社会福祉協議会へ訪問し、派遣状況の調査を予定しています。
- (2) 若手講師については勉強会を継続して、スキルを上げていくことや派遣講師の不足を改善するための養成に取り組むことを課題とします。
- (3) 地元の社会福祉協議会については第3次福祉活動計画の実践と併せて、連携を深めていくことを課題とします。

◆昭和区障害者地域生活支援センター（障害者基幹相談支援センター）

- ・基幹のスーパーバイズ機能としてはまだこれからです。区内事業所の数は揃ってきており、事例検討などの着手も緒についたばかりです。今後協議会の各部会の中で丁寧に情報を拾っていくほか、区外市外での研修についても利用し、底上げを図っていきます。
- ・精神障害者からの相談については、基幹本部での対応が中心であったためサテライトとしては数は少ないが、資源やとりまく環境が充分整備されていない中での退院促進など、困難さは目に見えています。学習会の開催や医療サイドとの連携が必要です。基幹本部とともに取り組みます。

ほかっと軒

＜26 年度の事業方針＞

- ・平成 23 年度より続いている黒字傾向を維持できる事業運営に努めます。
- ・同時に収益事業以外に、高齢者が介護保険の利用者として声をあげていけるような仕組みづくりをし、また同時にこの地域へのボランティア活動なども進めます。
- ・高齢者の福祉において、より弱い立場にある高齢当事者に立った事業を創っていくことが、経営的にも運動的にも重要なことであると考えます。

I. 総括（年度事業方針に対する成果）

- ・経営的には利益率は 101.2%（対前年度比）にとどまりましたが、昨年度からの黒字経営を維持することが出来ました。
- ・福祉財源が先細りする中、利用者の生活を支える上で介護保険に限らず障害福祉サービスでのヘルパーサービス（居宅介護・重度訪問介護）にも力を入れた支援を行いました。
- ・在宅の独居高齢者への食材配りのボランティア活動や緊急通報装置の維持継続を行うことが出来ました。

II. 事業の実施状況

◆ 居宅介護支援

- ・終末期の方や生活保護の方、精神障害の方を中心に、他の事業所では受けたがらないような利用者の支援を行いました。そのため、売り上げは伸びませんでしたが、ほかっと軒ならではの支援ができたと自負しております。
- ・また、年度後半は積極的に新規利用者を受け入れ、関係機関との連携を密にとるよう努めました。

◆ 訪問介護

- ・障害福祉サービスの利用者の新規問い合わせが 7 件（うち 3 件が精神障害者）ありました。AJU 以外のケアマネや計画相談支援事業所からも問い合わせがあり、地域で支援を必要とする障害者の裾野が広がっていることを感じさせられました。
- ・多くの時間活動してくれる登録ヘルパーの退職が相次ぎ、常勤ヘルパー中心の派遣組では派遣に柔軟性を欠くことが目立ち始めています。夜朝動けるヘルパーが少なくなり、常勤ヘルパー全体で夜朝の活動を支えている状態です。

◆ 日常生活自立支援事業

- ・今年度は新規利用者の受け入れをすることができない状態でした。加えて、死亡や成年後見人の選任などにより、4 名の利用者が解約となり、利用者減となりました。
- ・ただ、この事業での対応が難しくても、成年後見人と結びつけるなど、本人の支援が止まることのないように努めました。

◆ インフォーマル支援

(1) 緊急時通報支援について

- ・利用契約者数は前年度と同数の2名でした。
- ・深夜に緊急の呼び出しがあり、その際におむつ交換をしました。ただ、緊急対応で動いた者が異性だった時のおむつ交換について、利用者の中には拒否的な感情があり、男女のヘルパーがともに深夜の対応ができる体制を作っていく必要を感じました。

(2) 「元気が出る高齢者福祉」学習会実施について

- ・年に2回開催することができました。
- ・介護保険のエンドユーザーに講師を依頼しました。大人数の前で話し慣れていない方々ではありましたが、朴訥とした生の声をそのままヘルパーに伝えることができ、利用者のありのままの意見を感じ取ってくれたと感じております。

(3) 地域の孤立しがちな高齢者に野菜を配布する活動について

- ・配布先世帯数については、年度内に変動ありましたが、年度当初「7世帯」だったのが年度末には「8世帯」になっております。
- ・独居の方や老老介護のお宅を中心に食材を配布しました。ただ、訪問するだけではなく、ヘルパーであれば制度の縛りがあってできないような支援（電球の交換、大掃除に位置づけられる掃除等）を積極的に行うことで、配布先からも好評を得ておりますので、今後も継続した支援を行っていきたいと思います。

Ⅲ. 継続課題

- ・高齢者の地域生活を支えるうえで、活動できるヘルパーを増やすことが急務です。ヘルパーの数を増やすのはさることながら、現在動いてくれているヘルパーの中で動ける時間帯を増やすこと、また、現在、家事援助しかできないヘルパーに身体介護も入れるようにスキルアップを図るなど、質量両面での底上げの必要を感じています。
- ・社会福祉法人が行う介護事業所として、利用者のニーズをくみ取り、制度にないサービスであれば、それを創造・開発する必要があります。それと同時に、今後、社会福祉法人はますます社会貢献が求められて行きます。その上で、緊急通報や野菜配布ボランティアは継続して実施してまいります。
- ・私たちが事業を行う真の目的は、高齢者がどんな状態になっても生活できる地域を創出することです。そのために高齢者が最期の最期まで地域で生活できる仕組みを作っていく必要を感じており、27年度以降の課題としてまいります。

障害者ヘルパーステーション・マイライフ

.....

<26 年度事業方針>

② 域移行推進 5 名

③ チーム制強化（利用者 ⇄ 職員・個々の信頼関係構築）

I. 総括（年度事業方針に対する成果）

① サマリアハウスと連携の下（定例会議 1 回／月・課題表出時適宜）派遣体制を整えた。

成果：サマリアハウス新規入居者、男性 3 名（6／4、28・11／10）

：名古屋特別支援学校の生徒が卒業後サマリアハウス入居を予定しました。

生活塾・マイライフ西、岩倉連携の下、I L P、ピアカンを実施しました。

成果：親元より地域社会へ自立生活開始（12／17）されました。（42 歳・女性）

② 事業所・チーム単位で利用者との外出・イベント企画実施。

成果：派遣（仕事）以外の時間を共有し利用者との関係作りのきっかけとなりました。

※「遠出する機会もなく勇気もなかったが気分転換も大事と感じた」などお声をいただきました。

II. 重点項目

① <チーム体制強化（チーム間の報・連・相徹底）>

・ 4 事業所間情報共有システム（V P N）導入

成果：派遣表、登録ヘルパー名簿（新規含む）、各講座情報などネットワークで共有し、職員間の業務のやり取り及び登録ヘルパーの派遣活動に関して合理的にシフトを組みました。

② <地域移行推進にかかるサマリアハウス連携強化>

成果：一人一人の個性や障害特性を鑑みた I L P の取り組みなどサマリアの方針に沿って派遣体制を整えました。

③ <職場環境改善>

・ 1／15 マイライフ新事務所開所。

<具体的な取り組み>

・ 「卒業生を送る会」を開催。利用者にも会の開催企画参画を依頼し職員と共に実施しました。

・ 養成講座修了後の茶話会を利用者へ周知しました。（派遣へつなげる）

・ 利用者との食事会を随時開催しました。

III. 事業実施状況

<利用者個々の Q O L 向上の取り組みを密にするため職員の派遣時間数を減らし利用者
対話・会話する時間を増やす>

（月間派遣時間数の数値目標。リーダー 20 h ・サブ 40 h ・スタッフ 80 h ）

リーダー 24.5 h （-27）・サブ 73 h （-34）・スタッフ 78 h （-24）

※（ ）内は 25 年度時間数差

＜支援の質の向上（職場環境改善に伴う利用者・ヘルパー参加による交流の場作り）＞

重点項目③参照

＜相談業務の充実＞

（職員の派遣時間数減に伴う相談業務の充実）

・利用者MT及び定例会議 1074 回開催（670 回）利用者訪問 1057 回※（ ）内は 25 年度回数

（加齢・二次障害・重度化対応※当事者スタッフによる相談対応）

・加齢に伴う障害の重度化を補うため新居への引っ越し及び福祉用具の活用など住環境整備のアドバイスを行いました。

＜職員の役割と職責の明確化とチーム間（各事業所含む）との連携＞

（各チームの業務進捗精査と活性化を図る）

・4 事業所間情報共有ネットワーク（VPM）構築しました。

（西・刈谷・岩倉→各事業所MTマイライフ管理者参加）

・各事業所定例会議 西、刈谷、岩倉 2 回／月 マイライフ管理者参加しました。

＜研修の充実＞

（医療的ケア実施スタッフ養成研修）

・喀痰吸引等研修 1 回開講 受講者数 6 名

（利用者・登録ヘルパーのニーズに応じた年間研修企画実施）

・開講数 42 回 受講者数 535 名 新テーマ 9 コマ

＜職員体制の充実＞

（5 名の方の地域移行を目標に体制確立）

サマリアハウス 3 名入居・親元から地域社会への移行者 1 名

（目標に向けた登録ヘルパー養成）

新規登録ヘルパー数 159 名（118 名） 重度訪問講座養成数 196 名（内 135 名登録）

※（ ）内は 25 年度新規登録数

（子育てが行いやすい職場環境整備）

社会保障制度を活用し 2／8 より産休に入りました。（28 年度 4／1 職場復帰予定）

IV. 継続課題

- ・利用者←→職員←→登録ヘルパー 発展的人間関係作り。
- ・利用者←→職員←→登録ヘルパー 交流の場作り。
- ・地域社会との関係作り

＜特記事項＞

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ・8／13 男性利用者不詳の内因死により急逝。 | 享年 61 歳 |
| ・9／10 26 年の 1 月より入院中であった男性利用者他界。 | 享年 35 歳 |
| ・9／17 女性利用者不詳の内因死により急逝。 | 享年 55 歳 |
| ・3／27 女性利用者障害の進行により他界。 | 享年 80 歳 |

◆マイライフ西

テーマ：「自立生活を目指す当事者の掘り起こし、医療的ケアを必要とする方への支援体制の確立。」

＜重度な方、医療的ケアの必要な方への支援体制作りとして、新人職員、26 年度配属職員の育成強化と医療機関、相談支援事業所などとの連携＞

- ・医療的ケアを要する利用者に対し、本人、家族、関係機関間でケース会議を行い参加。対応に努めました。
- ・名古屋特別支援学校にて放課後支援に携わっている生徒に対して、担当者会議（ご本人、各関係機関）を開催し、卒業後の支援体制を各機関含め整えました。
- ・新規配属職員に対し業務全般、生活塾との関係性を伝え役割を付与しました。
- ・市内の一人暮らしを希望する女性当事者に対しマイライフ岩倉と協同し自立生活実現に向けた取り組みを行いました。

＜派遣業務及び事務関係を担う職員の確保＞

- ・ボランティア、ヘルパー募集のチラシ配りを毎月 2 回ペースで行いましたが成果はありませんでした。

サマリアハウス体験室との連携

＜名古屋市内及び近隣市町村の特別支援学校及び施設入所者に対して、地域で生活（自立生活）を目指したいという方の掘り起こしをおこなう＞

- ・夏季体験経験後、体験室 3 回（8、11、3 月）を行い 4/1 入居予定を立てました。

◆マイライフ刈谷

テーマ：『地域移行者への支援体制強化と障害当事者リーダー育成』

＜重度訪問介護従事者養成講座開講を定期的に行ない、利用者の QOL の向上と派遣の安定化を目指す＞

- ・『重度訪問介護従事者研修』9・12 月 2 回開講。

受講生 15 名 登録者 10 名 活動者 8 名

＜障害の種別にとらわれず、集まれる場の提供。（CIL 機能立ち上げ準備）＞

- ・サマリアハウス 12 月退去した男性利用者 1 名が三河地方で自立生活を始めました。
- ・岡崎市在住の男性障害当事者 1 名への IL を積極的に行い、サマリアハウス体験室を 2 回利用しました。福祉ホーム入居を予定しています。
- ・定期的にイベント開催しました。（日帰り旅行、BBQ など）

＜常勤職員・嘱託職員の確保＞

- ・大学卒業予定の登録ヘルパー 2 名に積極的なアプローチをした。結果、27 年度より女性 1 名（嘱託職員）、男性 1 名（正職員）として採用しました。

＜関わる障害当事者へ DPI、JIL のセミナー、ピアカン、ILP 等の参加を勧める＞

- ・車いすセンター主催の ILP、東海北陸バリアフリー市民交流集会に女性利用者 1 名が参加、QOL の向上と共に障害当事者との交流を図いました。
- ・JIL の総会（5 月）、DPI 日本会議全国集会（6 月）、CIL 夢宙センター大感謝祭（3 月）などに参加し、他の障害者団体との交流を図いました。
- ・愛知県重度障害者団体連絡協議会の総会（4 月）、愛知 TRY の活動（豊田市、江南市、名駅地下街）、愛知県聴覚障害者協会のデモ（10 月）、ホノルルマラソン（12 月）に参加し障害者運動を広めました。

◆マイライフ岩倉

テーマ：「障害当事者同士のエンパワメント関係構築」

＜尾張小牧地区に於ける障害当事者リーダー育成＞

- ・当事者男性 1 名雇用。業務を通じたピアカン、エンパワメント関係の構築を計画しました。
- ・尾張小牧地域での自立生活の啓発を行うため、当事者を中心にメッセージ活動（計画相談事業所など 16 回訪問）をしました。

＜施設、親元からの地域移行希望者発掘＞

- ・岩倉市在住の当事者、6 月に親元からサマリアハウス入居されました。
- ・名古屋市在住、自立生活希望の女性当事者への支援体制と自立生活の課題解決にあたりマイライフ西の所長を始めスタッフと連携を取り地域生活をスタート（12 月より）されました。

＜地域活動支援センターの発展的取り組み＞

- ・仲間作りと自立生活の意識付けを行い、社会経験値増を目的に尾張小牧地区の当事者会を 1 年通じて実施しました。そして当事者会参加の利用者（18 歳未満）に対し「はじめの一步」企画として外出計画から参画してもらい経験を積み上げ（8 回実施／年）成功体験から自信をつけてもらいました。

V. 平成 26 年度・ヘルパー活動時間数(実績)利用者数の推移

	月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
マイライフ	時間数	17057	17414	17011.5	17938.5	16700	15951.5
	利用者数	111 名	110 名	112 名	107 名	107 名	106 名
西	時間数	3039	3251.5	3027.5	3296	3090.5	2921.5
	利用者数	35 名	35 名	36 名	35 名	35 名	33 名
刈谷	時間数	2788	2812	2446.5	2569.5	2795.5	2374.5
	利用者数	9 名	9 名	9 名	9 名	9 名	9 名
岩倉	時間数	492	497	690	756	783	720.5
	利用者数	15 名	15 名	15 名	13 名	14 名	14 名
	月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
マイライフ	時間数	16007	15890	16584.5	15960.5	15030	16955
	利用者数	104 名	106 名	101 名	99 名	105 名	104 名
西	時間数	3174.5	3178	3331.5	3242	3052.5	3221.5
	利用者数	32 名	31 名	32 名	31 名	30 名	29 名
刈谷	時間数	2512	2385.5	2399	2569	2345.5	1993.5
	利用者数	9 名	9 名	9 名	9 名	9 名	9 名
岩倉	時間数	759	771	849	866	740.5	857
	利用者数	13 名	14 名	13 名	14 名	14 名	15 名

相談支援事業

(サマリアハウス・わだちコンピュータハウス・ピア名古屋)

＜26年度事業方針＞

- (1) 相談支援の充実
- (2) 相談支援体制の整備
- (3) 困難事例への対応

I. 総括

相談支援事業も3年目に入り、障害当事者主体を尊重した基本相談に重きをおき、一人一人と向き合い時間をかけて相談業務にあたり、より良い地域生活が送れるような相談支援を行ってまいりました。中には、一人では問題解決にならないような事例に対しては、基幹相談支援センターからのアドバイスをいただき、関係機関との連携により相談業務に臨んでいます。

今年度から名古屋市による補助金交付方法が変更になり、法人全体での相談支援のあり方を検討してきました。その結果として、1事業所に一人の相談支援専門員では、より良い相談支援が行うことが難しいと判断し、27年度に向けて3事業所を1事業所に統合し、複数名の相談員を配置し相談支援体制の整備に務めました。事業所を統合するにあたり、相談支援事業所として計画を立てる一方で、自身で計画作成する力がつくような支援も行い、セルフプランへの移行に繋がったケースもありました。

相談員のスキルアップのため、精神保健・福祉・医療の連携についての研修に参加するなど、法人内部での会議や昭和区自立支援協議会相談支援部会に積極的に参加しました。

II. 事業の実施状況

◆基本相談支援 実施状況

		総数	サマリア	わだち	ピア名古屋
手段	電話	812	359	300	153
	来所	193	116	32	45
	訪問	426	176	184	66
	その他	557	131	390	36
内容	障害福祉サービスの利用について	1,132	657	325	150
	障害福祉サービス以外の利用について	601	82	369	150
	その他	80	38	42	0

◆計画相談支援 実施状況

	総数	サマリア	わだち	ピア名古屋
サービス等利用計画案作成	119	78	27	14
うち地域生活支援センターからの紹介(初回のみ計上)	4	4	0	0
サービス等利用計画作成	103	62	24	17
継続サービス利用支援(モニタリング)実施	160	93	37	30
サービス利用支援要請に応じられなかった件数	6	4	1	1

◆相談支援技術の向上の取り組み

	総数	サマリア	わだち	ピア名古屋
障害者地域生活支援センターの開催する研修	2	1	1	0
障害者地域生活支援センターの会議	16	6	10	0
事業所内の会議・研修	33	22	6	5
その他の研修	2	1	1	0
その他の会議等	44	21	21	2

※ピア名古屋は7月30日にて事業廃止のため、4月～7月までの実績

※わだちコンピュータハウスは平成27年3月31日にて事業廃止

Ⅲ. 継続課題

- (1) 相談支援を必要とする人へ、きめ細やかな基本相談を行うため相談支援員のスキルアップができる体制整備を考える
- (2) 困難ケースへの対応等、他事業所との連携することで問題解決に繋げていく。
- (3) 相談支援事業の問題点を行政機関等への意見を出していく。

名古屋マック

(名古屋マック・T Y Mルーム・ピートハウス)

< 26年度の事業方針 >

- ・アルコール依存症からの回復の手助け。
- ・マック・T Y Mルーム・ピートハウスのプログラムの充実。
- ・広範囲への広報活動の実施。
- ・職員育成。
- ・法内施設への移行。

I. 総括

開設30年目に入り、多様化するアルコール依存症者に対して個別のプログラムを提供すべく、現在の建物では限界が来ている。多機能型施設建設が実現すれば、質の高いプログラムが提供できますが26年度も不可となったので、現状での施設で一人でも多くの仲間が回復し、社会復帰できるように努力しました。

マック、T Y Mルームの日中活動系ではこれまでのプログラムを継続しながら個々の抱える問題にもカウンセリングを実施するなど積極的に取り組みました。また一昨年伊良湖から佐久島へ移した夏季研修会も、プログラムを見直し、よりしっかりしたものになり有意義な研修会となりました。

T Y Mルームは、従来から行ってきたプログラムに小牧ワイナリーの除草作業が加わりました。

職員のスキルアップも仲間の回復に反映されるため、今年度もアルコール関連問題学会やJ C C Aのセミナー等に積極的に参加しました。昨年叶わなかったサービス管理責任者講習ですが1名が参加し取得できました。

ピートハウスは、定員12名のところ、約10名で推移しました。

難しいと思われる地域と、可能性のある地域に対するメリハリある広報活動に努めた結果、前年を上回る利用者が確保出来ました。

II. 事業の実施状況

◆名古屋マック

- (1) アルコール依存症だけではなく、重複障がいが増加しており、今までのプログラムでは対応が難しい。個々に合ったプログラムを提供しなければ回復できませんが、新たなプログラムを取り入れるのは現状の建物では限界があり、できる範囲でプログラムを改善しました。

《月別利用者数》

《平成 26 年 4 月 1 日～27 年 3 月 31 日》

内訳/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ピートハウス	6	6	6	5	5	5	5	6	6	6	6	6	68
ピート第 2 ハウス	3	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3	41
通所(自宅)	2	2	2	1	1	1	2	2	0	0	0	0	13
病院(継続)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
病院(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自助グループ	4	4	6	3	7	4	6	3	4	5	3	4	53
施設・一般	5	3	4	4	3	2	5	5	3	2	5	3	44
合計	21	21	24	18	20	16	22	20	17	17	18	17	231

内訳/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
プログラム登録者	12	14	14	11	10	10	11	12	10	10	10	10	134
プログラム修了者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
途中修了者	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	1	6

利用延べ人数	3,732
一日平均利用者	10.2

(2) 主なレクレーション・研修会

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
J R リニア記念館	ゴールデンウィーク プログラム	大阪マック感謝の 集い	マック夏季研修会	ピーター墓参り	ウェルフェア コンサート
横浜マック 30 周年	春のマックバザー	AA 小牧 G O S M	夏季研修会	AA 愛知小野浦 R U	AA コスモス G O S M
1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
南山教会バザー	京都マック感謝 の集い	マック感謝の 集い	AA コスモス G ボウリング大会	依存症回復支援施設 職員研修 in 福岡	アルコール関連問題学会 東海北陸地方会
秋のマックバザー	AA 愛知 O S M	Xmas 会	AA 愛知迎春 ワークショップ	AA 日本 40 周年記念 集会	AA 静岡お花ミーティング

(3) メッセージ活動

- ・ 8 か所の病院へメッセージを運びました。その他にも 3 か月毎ですが桶狭間病院にもメッセージを運びました。またアルコール関連問題学会やアディクション看護学会への参加。名古屋市健康福祉局主催のアディクションセミナーにも参加しメッセージを運びました。その他にもアル法ネット集会に参加し、インターネット番組にも二度参加しメッセージを運びました。

病院名/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
南豊田病院	10	6	4	8	6	7	5	8	10	6	6	7	83
好生館病院	4	5	5	5	7	9	7	5	4	4	3	4	62
駒ヶ根病院	16	17	11	16	21	16	11	19	0	18	18	9	172
紘仁病院	19	21	21	27	26	19	18	21	20	15	18	18	243
各務原病院	16	15	17	13	18	16	19	20	24	25	30	21	234
三重県心の医療 センター	12	12	12	11	20	10	9	12	11	12	12	9	142
刈谷病院	11	21	16	15	11	19	20	15	14	11	12	15	180
日永病院	-	7	-	-	14	-	-	13	-	-	11	-	45
合計	88	104	86	95	123	96	89	113	83	91	110	83	1161

◆ T Y M ルーム

(1) 高齢者、重複障がいの方に一般就労が難しい方がマックから移って利用しているので、仲間は固定していますが、将来を考えて、個人宅を順に回る移動ミーティングを行いました。また26年度は、小牧ワイナリーの除草作業が増えました。

(2) T Y M 利用者状況

《平成26年4月1日～平成27年3月31日》(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	修了者	途中退寮者
利用者数	9	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	100	※	※
利用者延べ数	204	199	188	157	177	174	185	197	205	197	189	183	2255	※	※
ピートハウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	※	※
ピート第2ハウス	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	17	※	※
通所	7	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	83	※	1
一日平均利用者	6.8	6.4	6.3	5.1	5.7	5.8	6	6.6	6.6	6.4	6.8	5.9	6.1	※	※

(3) 作業プログラム、レクリエーションについて

- ・レクリエーションとして散策を取り入れています。主な散策先は、徳川園、東山動物園、ランの館、堀川、名城公園。また、温泉プログラムを週一度実施しました。3月には、篠島へ一泊の研修へ行ってきました。
- ・主な清掃・除草作業先は、城北橋教会、多治見農園、働く人の家、東海住宅等ですが、新たに小牧農園の作業が加わりました。
- ・仲間宅でミーティングを行う訪問ミーティングを、高齢になった卒業生への支援として、続けています。

《平成26年4月1日～平成27年3月31日》(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ミーティング	41	35	32	41	40	39	41	38	40	41	36	39	463
運動プログラム	4	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	46
レクリエーション	4	3	5	3	4	5	3	4	6	5	4	5	51
研修会	0	0	2	2	2	2	0	3	2	1	2	2	18
清掃作業	5	6	7	6	5	6	6	5	5	6	4	7	68
印刷作業	1	1	2	1	1	2	1	2	1	2	2	2	18
除草作業	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
農園作業	4	3	5	4	5	5	2	0	0	0	0	2	30
就労プログラム	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	62	54	59	64	63	66	57	58	60	61	54	63	721

◆ピートハウス

(1) ピートハウスも現状の建物で出来る事を提供しました。月に2度のハウスミーティングを大切にしました。マックで言えない事も話せるのがハウスです。仲間が抱えている問題に膝を交えて話し合い解決に繋げました。夜間もスタッフが交代で宿直しますが、スタッフそれぞれの特徴を生かし仲間と触れ合い回復へ結びつける努力をしました。

(2) ピート第2ハウスは構造上1階の仲間と2階の仲間が離れがちなので、そうならないようにハウスミーティングで指導しました。また健康面についてもチェックしました。

入寮者状況報告

《平成26年4月～平成27年3月》（単位：名）

内訳/ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ピートハウス	4	6	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	64
ピート第2ハウス	6	5	6	5	4	4	4	4	4	4	5	5	56
移動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入寮者	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	6
自活退寮	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
指示退寮	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
月末継続者	11	11	10	9	9	9	9	10	10	11	11	9	119

内訳/ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
見学者	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	6
問い合わせ	3	2	5	4	2	4	5	4	2	3	3	3	40

Ⅲ. 継続課題

- ・マック、TYMルームのさらなるプログラムの充実、
- ・多機能型施設への移行。（サービスの充実、安定した運営）
- ・サービス管理責任者の養成。
- ・安定した利用者確保を目指す広報活動。
- ・職員研修

多機能型障害者自立支援施設

I. 総括

平成 26 年度施設建設予算計上を実現するため、河村市長との懇談や岩城副市長との意見交換と協議の場を設けて頂き、マスコミによる社会問題化、支援者の拡大といったアイディアなどを共有し、1 年間、粘り強く取り組んできました。また、キーパーソンである地元選出市議より、「シンポジウム（説明会）」開催の提案がなされましたが、地元役員等の強い反対意見にあい、延期となりました。

平成 26 年度の施設建設予算計上は残念ながら、実現することはできませんでしたが、担当部局より「施設整備予算は厳しいが、啓発関係の予算を組みたい」といった説明がされ、平成 26 年度は「障害者理解の推進を図る啓発活動等」の予算（約 500 万円）が計上されました。

II. 事業の実施状況

①地域の支援者との連携

「多機能型施設を実現する会」を 6 回、「花たちばなの会」を 5 回、4 月には「地域福祉セミナー」を開催しました。また、支援者の方々には河村市長、岩城副市長、名古屋市担当部局、地元選出市議との面談や話し合いの場にも同席いただきました。

②地域住民との話し合い

地域住民の理解を得るため個別に町内役員の方々と話し合いの場を持ちましたが、平行線の状況が続いています。地元選出市議からの提案により、「シンポジウム（説明会）」が計画されましたが、地元役員の反対に遭い、開催にいたらず、延期となりました。

③事業内容の検討

6 月より月 2 回のペースで検討会を開催し、建設計画案をまとめ、名古屋市に対して「平成 26 年度障害福祉サービス事業所等施設整備費補助事業に係る協議書」を提出しました。

④地域活動の推進と地域貢献活動

地元学区の行事や当該町内会の催事に積極的に参加し、地域住民との顔の見える関係づくりをおこないました。また、屋外掲示板を活用して A J U 自立の家の活動の紹介や身近な福祉の理解についての啓発活動に努めました。

III. 継続課題

平成 26 年度の施設建設予算計上は叶いませんでしたが、啓発事業予算が計上されました。

このことは今までにはなかった予算措置をとる行政の動きで、少しずつですが、施設建設を実現するための環境が整ってきたと感じています。

平成 27 年度には何としても施設建設予算が計上されるよう、名古屋市担当部局、支援者の方々と連携し、「障害者差別解消法」を追い風として、啓発事業やシンポジウム（地元説明会）の早期開催、地域住民や公職者への働きかけを粘り強く続けていきます。

アジア障害者支援事業

I. 総括

26 年度も例年に引き続いた活動を中心に実施してきました。毎年実施してきた車いすの輸送を昨年度は見送りしたため、1 年ぶりに 226 台の車椅子を 12 月に整備、詰め込みを実施し輸送しました。一昨年度に輸送した車椅子の在庫を昨年度から引き続きアジア諸国に届けるため、調査訪問をしてタイやカンボジアの当事者に届けつつ、今後に向けての調査をすすめました。

また、愛知県重度障害者の生活をよくする会主催のシティハンディマラソンが 30 周年を迎えるにあたり、プロジェクトとしても積極的に協力して準備してきましたが、当日は台風接近に伴い残念ながらマラソンは中止、アジアからの招待選手は AJU の見学や市内観光をはじめ、交流には協力して実施することができました。

アジア諸国への障害当事者の研修

昨年度はタイ AADP の女性当事者と事務局メンバーを名古屋に招待し、研修を実施しましたが、今年度は AJU の若い当事者メンバー 3 名がアジア諸国への研修に参加しました。2 名はタイで開催された IL ツアーにて、韓国・日本・タイの現状や課題を学び、1 名はベトナムに車いすを手渡しで届ける目的を兼ねての研修でした。ベトナムでは、2 年ほど前にシティハンディマラソンに招待した方がリーダーであるセンターや、ダスキンから AJU で研修を受け入れた方が働く就労支援の場も見学訪問しました。3 名のうち 1 名は既にプロジェクトのメンバーでしたが、他の 2 名も研修がきっかけとなり、アジアの障害者との関わりを継続していくためにプロジェクトメンバーとして加わりました。

タイ（AADP 他）訪問

プロジェクト事務局長がタイの現地事務所 AADP へ 5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月と計 6 回訪問。現地スタッフとの調整や、車いす整備の指導、タイの周辺地域への現地調査や車いす贈呈のための活動を行いました。継続した現地訪問により、タイスタッフとの連携も密になり、訪問ごとの報告によって、プロジェクトメンバーの意識も高まり、重要な活動となっています。また、若手新メンバーが事務局長に同行し、タイの現状や AADP のスタッフから多くを学ぶことができました。

訪問時には、毎回タイの障害者が作成、販売している手作り小物を仕入れ、それらの商品を国内で販売することで、現地の障害者の就労を応援することができました。

イベントへの出展・参加

例年ご協力いただいているユニー(株)様のイベントに、ミニ写真展として 2 店舗に出展参加しました。また、東山公園ブレーメンフェスティバルや AJU 内のイベント（わだちまつり・ワインフェスタ他）にも出店し、タイの障害者が作成した小物の販売やパネル展示で、アピール活動を行いました。

イエローレシートキャンペーン

(株)イオン様が社会貢献活動として毎月 11 日にイエローレシートキャンペーンを実施されています。プロジェクトも参加団体として登録、26 年度は計 4 回、店頭キャンペーンに参加し、約 5 万円のギフトカードを寄贈が決まり、活動に役立つ商品に還元させていただきます。